

豊中市地域包括支援センター外部評価表

○仕様書[4] 業務内容 ア) 介護予防ケアマネジメント業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
1	介護予防ケアマネジメント業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☒ 自立支援に資するプランになるよう、委託先の居宅介護支援事業所に対し、積極的なアプローチを実施している。 ☐ 高齢者の主体性を引き出すための工夫をしている。 ☐ リハビリ専門職に意見を求めるなど、生活能力の改善・維持・悪化の可能性を見極める視点を培っている。 ☐ 潜在的対象者の把握について工夫している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標：居宅支援事業所に対して、利用者に適切な支援ができるよう、また介護支援専門員同士がつながりをもつことで、よりよい支援ができるよう、勉強会を開催していく。 内容：「服部・緑地ケアカフェ」を年度で、4回計画し、3回は実施終了している。また「中西部主任ケアマネネットワーク」を年度で4回計画し、3回実施し、3月に予定している。事業所をこえた介護支援専門員同士の意見交換が良いと評価をもらっている。	【取組進捗状況内容】 介護支援専門員に向けたケアカフェを緑地地域包括支援センターと協働で年4回開催されています。圏域内の主任介護支援専門員に向けたネットワーク（勉強会）を年4回開催されています。 【特に優れている点】 内容レベルを分けた介護支援専門員向けの情報交換・情報共有の場を設けられており、介護支援専門員の悩みや課題を踏まえた、内容構成にも留意されています。 【課題】 圏域内を中心として、参加協働できる居宅支援事業所を、さらに拡充していく事に期待します
		【課題】 事業所の参加は現在のところ一定数ある。今後継続して参加してもらえるように、また参加のない事業所に対してどのようにアプローチしていくかが課題となる。より関心のある内容を検討していく必要がある。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 次年度に向けての参加介護支援専門員に対して、勉強会での理解、今後の意向等、アンケートやニーズ聴取の取り組みを計画していく。	

令和 5 年度 服部地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 イ) 総合相談支援及び権利擁護業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 （地域包括支援センター運営協議会からの意見等）
2	総合相談支援及び権利擁護業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐ 自分らしく尊厳をもって生活することができるよう、自己決定・意思決定支援をしている。 ☒ 予防的アプローチと地域づくりに取組んでいる。 ☐ 3 職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施している。 ☐ 多機関と連携した重層的支援体制の構築に向けた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標：市民に対して、相談できる包括支援センターがあることを知ってもらう。 内容：校区でのサロン参加、敬老の集い全校区参加、信用金庫での定期的な相談会、体育館体操教室訪問啓発、スーパー、郵便局へのチラシ配布訪問、「服部ほっと瓦版」の発行、配布等、啓発活動を行った。	【取組進捗状況内容】 地域での定期的な相談会の開催や、サロン活動、集い等が、コロナ禍以前の水準まで戻されています。 【特に優れている点】 民生委員・児童委員・校区福祉委員等と協働で、介護予防マップを作成されており、内容は継続して改訂されています。 【課題】 若い世代を含めた、啓発の拡充からのより一層の地域作りに期待します。
		【課題】 高齢者本人に対しての啓発の取り組みは多くしているが、高齢者を家族に持つ若い市民に対しての啓発は、今後の課題である。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 若い世代への啓発の取り組みとし、啓発方法を検討していく。	

令和5年度 服部地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
3	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐介護支援専門員等への個別ケアマネジメント支援において、地域包括支援センターが代わりに行うのではなく、介護支援専門員がより良い判断に到達できるよう助言等の支援している。 ☒地域アセスメントを実施し、地域の実情に応じた取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標：コロナ禍で見えづらくなった、圏域での地域ネットワークの構築を目指していく。 内容：圏域内の小学校区ごとでの地域ネットワーク会議（高齢者実務者担当者会議：高齢部会）を全校区開催、予定している。各校区ごとに開催テーマを検討、工夫し開催している。また各校区の地域課題を各企画シートにまとめ分析し、課題考察に利用している。	【取組進捗状況内容】 校区担当が、地域を直接歩き得た情報を基に、民生委員・児童委員・校区福祉委員等からの情報交換・情報共有も踏まえた地域課題把握につながられています。 【特に優れている点】 校区毎の課題を踏まえた、高齢部会のテーマ設定を行い、各校区毎の地域課題に沿った取り組みにつなげられるよう留意されています。 【課題】 コロナ禍の制限下において、従前の取り組みや、人のネットワークに大きな変化が起きている。現状を踏まえた、再構築の拡大とつながりの拡充に期待します。
		【課題】 今年度より集合形式でのネットワーク会議が本格開催できている。地域の担い手の方や、事業所の担当者など変更されているところも多く、顔の見える関係づくりは、再開され始めた状況である。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 地域での顔の見える関係づくりを拡充、地域情報の共有、情報交換をし、各地域に応じた、取り組みを検討していく。	

令和5年度 服部地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 エ) 一般介護予防事業を推進する取組みについて記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）できていない	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
4	一般介護予防事業を推進する取組み（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☒地域の通いの場づくりにおいて、地域及びグループの特性に応じた活動を、創意工夫しながら支援している。 ☐多様な地域活動や通いの場等と連携し、介護予防ネットワークの構築を推進している。 ☐体力測定会において短期集中サービス終了後のセルフケアの定着を推進しつつ、地域資源につなげるなど高齢者の社会参加を促す取組みを実施している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標：地域の通いの場の数を増やしていく。 内容：通いの場の普及啓発や、新に通いの場として利用できる場を探し、それぞれの場所で体験会を実施、新たな通いの場の立ち上げをすることできた。 中西部介護予防マップの作成と、独自のチラシ「ほっと瓦版」も活用し啓発している。 地域教室、校区サロン、豊中健康大学、郵便局、スーパー、共同利用施設等での啓発も実施した。	【取組進捗状況内容】 オレンジカフェ・パワーアップ体操・地域教室・ぐんぐん元気塾・体力測定会・民生委員相談会等、人が集う場、通いの場を、活用されています。 【特に優れている点】 体験会からの通いの場へと展開されている事例もあります。地域やグループの特性や、場の特性を踏まえ、プラスワンの活動や行事・啓発等を取り入れることによって、場への刺激や新たな興味へとつなげられています。 【課題】 人材の発掘・育成を継続していくことで、通いの場の維持と展開につなげていくことを期待します。
		【課題】 通いの場の活動場所を増やすことはできたが、体調不良や活動する方の活動意欲の維持や、リーダーシップを発揮できる人が少ない傾向にあり、場所によっては、活動継続が難しくなるグループも出てきている。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 市民への介護予防啓発を継続実施していく。 地域の民生委員などつながりをより増していくことで、地域での情報を集め、リーダーシップを発揮できる人を、新たな活動場所、既存のグループへつなげていき、現状の通いの場の維持していく取組みに努める。	

令和 5 年度 服部地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 オ) 認知症地域支援・ケア向上事業について特に力を入れて取組んだことを1つ記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）できていない	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
5	認知症地域支援・ケア向上事業（次のいずれかの視点を入れて取組んでください） ☐ 認知症支援に関する個別事例において、嘱託医、初期集中支援チーム、疾患センター等の専門機関に相談する必要性を判断し、必要時相談できる体制を整えている。 ☒ 地域の実情に応じた方法により、認知症の人とその家族が参加する場で、本人の意欲向上と家族の介護負担感の軽減、認知症の人の在宅生活の安定を推進している。	【目標と具体的な取組み内容】 目標：認知症の方が住み慣れた地域で、生活していける体制を整えていく。 内容：圏域内の小学校2か所に子ども向け認知症サポーター養成講座の開催の働きかけを行い1月に開催予定としている。社会資源が少ない地区で認知症カフェの参加人数を増やす試みとして、音楽コンサートを開催した。開催のチラシを地区に配布し、認知症カフェの啓発も行った。認知症地域支援推進員の他市の状況の活動状況把握の為、見学研修を行った。	【取組進捗状況内容】 認知症カフェ5カ所の活動があります。当事者や家族等の参加も一定数確保されており、認知症カフェ本来の機能に沿った展開が行われています。 【特に優れている点】 認知症当事者や家族の参加が継続されていることによって、当事者・家族の相談や情報交換・情報共有の場として機能しており、不安軽減やレスパイトの場としても稼働しています。興味を持ってもらうために、音楽コンサート等とのコラボ等も行われており、新たな参加者や、参加者の年齢層の拡充にもつながられています。 【課題】 認知症カフェの機能や参加者を拡充していき、地域作りにもつなげていける、地域として行きやすい場所として、より一層の発展をしていくことに期待します。
		【課題】 子ども向け認知症サポーター養成講座の取り組みとして、全校区での開催計画を引き続き、計画していく。	
		【改善の方策と次年度の取組み】 子ども向け認知症サポーター養成講座の取り組みを継続していく。認知症カフェで本人、家族、地域がつながる仕組みを考えていく。	